

# スポーツ社会学に関する一試論

## －わが国における「スポーツ参与」の 変化についての一考察－

渡 辺 一 志

### 要 約

キーワード：スポーツ参与、過去のスポーツ経験、クラブ活動、高齢社会、  
総合型地域スポーツクラブ

都市化や機械化による生活環境の変化や、少子高齢社会などの社会環境の変化は、われわれに大きな社会的問題をなげかけている。このような社会において、スポーツのもつ価値がこれからますます大きな意味をもつようになってきた。日常生活の中にスポーツを取り入れることは、その個人の身体面、社会面、精神面において健康で豊かな生活を送るために有効な手段であるということが評価されてきている。今後、一人ひとりがスポーツに対して関心を深め、豊かなスポーツライフを生涯にわたって実践することが重要となってきた。

現在のわが国における定期的な運動・スポーツの実施者の割合は低い。年代別に見ると、20代が最も低い割合を示している。健康で病気のない生活を送るためには若いときからの定期的な運動・スポーツを実践することが何よりもその後のその人の生活の質を高めるにうえにおいて有効であるといえる。

本稿では過去のスポーツ経験が現在のスポーツ参与を規定する要因になっているという先行研究において、その研究対象の多くが中高年齢者であり若

年社会人に対する研究調査がみられなかったため、今回は大学のサッカー部に所属していた若年社会人5人を研究対象とした。そして、そのために過去のスポーツ経験と現在のスポーツ活動との関係についてインタビュー調査を試みた。その結果、過去のスポーツ経験が現在のスポーツ参与に大きく影響を与えていることが確認された。スポーツを始めるきっかけやスポーツを継続するには友達の影響が強いということも判明した。サッカーという人数を必要とするスポーツなどは特に就学期を終えたあとも継続するには高校時代の友達などのネットワークが必要である。また、単一種目のスポーツのみを継続してきたものは他のスポーツを行わない可能性があることも本調査から浮かび上がってきた事柄である。20代のスポーツの実施者を増やすには就学期を終えるまでに様々な種類のスポーツができる環境を整えることがますます重要になってくるものと考えられる。

わが国では就学期のスポーツ活動は主に学校のクラブ活動に支えられていた。しかし、本調査からは、国や地方自治体は学校以外に地域に根ざしたスポーツがしやすい環境を整えていくことが重要になってきた。とくに幼少期から高齢者までのあらゆるライフステージにおいてさまざまなスポーツを行うことができる「総合型地域スポーツクラブ」などのようなシステムづくりが整備されなければならないと考えられる。